



一人ひとりの生活

重点領域





一人ひとりの生活

ブリヂストングループは、「一人ひとりの生活」の重点領域の活動を通じて、「私たちの強みを活かしながら、地域社会を支え、人々の生活、学び、働き方を良くしていく」というミッションのもと、より安全・安心な社会の実現に貢献するとともに、インクルーシブで開かれた教育を支援し、より健やかな地域づくりを推進しています。

当社グループは、150か国以上で事業を展開し、14万人以上の従業員を雇用し、世界中の多様な文化や地域社会と交流しています。その中には、所得格差や貧困など、様々な課題に直面している地域もあります。2050年ビジョンの実現に向けて、多様なステークホルダーと協働し、地域の人々や従業員の生活の質の向上を図り、社会的価値と顧客価値の共創に努めています。それは、より安全な社会に貢献し、アクセス可能でインクルーシブな教育を支援し、より健全な地域社会の実現につながります。

これまでの取り組みの進捗や、地域やグローバルでのニーズを改めて整理し、重点領域のひとつである「一人ひとりの生活」に関する活動を進めていきます。具体的には、災害や緊急時の救援活動を中心とした、より安全な社会の実現、次世代のための身近な教育支援、そして世界保健機関(WHO)のアジェンダに基づく、世界的・地域的な課題に対応した健康的なコミュニティの構築を実現していきます。また、交通安全は、これら3つの目標を達成するための重要な取り組みであり、今後も重点的に取り組んでいきます。

タイヤメーカーとして、交通安全は当社グループの最重要課題です。例えば輸送運行オペレーションを直接支えるサービス「WEBFLEET」は、ドライバーの保護、在庫管理や運行の最適化、車両1台あたりのTCO(トータル・コスト・オブ・オーナーシップ)の改善など、様々な顧客価値を提供します。また、ドライバーの行動を管理・分析することで、ドライバーの健康をサポートし、ルートを最適化することで、燃料の使用に伴うCO₂の排出量を削減します。「WEBFLEET」は、身体的にも精神的にも負荷の高い仕事をするドライバーの生活の質を向上させることで、社会価値と顧客価値を創造しています。

当社グループのグローバルCSR体系「Our Way to Serve」の重点領域「一人ひとりの生活」における、社会価値・顧客価値を創造している事例を紹介します。

AHL (Active and Healthy Lifestyle)

私たちブリヂストングループは、創業当時から続けてきた“人々の生活と地域社会に寄り添い、一人ひとりを支える活動”をActive and Healthy Lifestyleの頭文字を取り、「AHL」と名付けました。それは一人ひとりが心身ともに健康で、個性を活かし、自己実現を果たしながら、多様な人々が互いに認め合い、助け合う共生社会を築くための活動です。当社グループは、この共生社会の実現に向けて、高齢者や障がい者が抱える社会課題を、地域社会や様々なパートナーとの共創によって解決することを目指しています。例えば、小平市に竣工予定のブリヂストンAHLアリーナは、徹底的なバリアフリーと最先端の解析機能を併せ持った、世界でも類を見ないスポーツ施設です。ここでは、高齢者の健康寿命の延伸や障がい者の社会参加の促進といった社会課題に取り組みつつ、夢を追う全ての人の自己実現を支えていくために、ブリヂストンとパートナーの強みを活かした全く新しい価値の創出を目指していきます。すでに多くの企業、研究機関、地域の皆様からの共感をいただき、「一人ひとりの生活」を支えるソリューションの共創に向けて具体的な取り組みを始めています。

ラバー・アクチュエーター(ゴム人工筋肉)

当社グループがこれまでに培ってきたタイヤ・ゴムの技術を活かし、一人ひとりの「できる」を実現するラバー・アクチュエーターを開発しました。これは、タイヤのゴムや油圧ホースの技術を適用したチューブと、タイヤ内部にある有機纖維コードの技術を応用して開発した纖維によって構成され、軽量かつ丈夫で、大きな力を出しながら柔らかく動かすことができます。また、このラバー・アクチュエーターは、用途に応じて出力の調整が可能で、健康増進を目的とした歩行・運動のアシストや、軽労化の為のアシストスツールへの応用、さらには産業用ロボットアームへの活用など様々な用途への利用が期待されます。現在、東京大学を始め、多くの企業や研究機関と共に向けた取り組みを進めています。





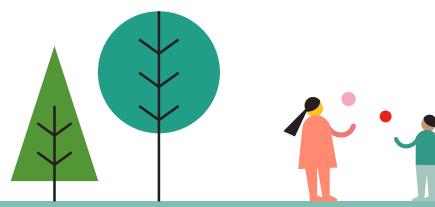
一人ひとりの生活 安全・安心な暮らしを支える

ベトナムでは、人口の70%が沿岸および低地の三角州など、河川の洪水に対して脆弱な地域に居住しています。またそれらの地域では、橋などのインフラが整っていない場所も多く、そこで暮らす子供たちは、木製のいかだやビニール袋でできたロープを使って、危険な川を渡らなければ、学校に通うことができません。そこでブリヂストン タイヤ マニュファクチャリング ベトナム リミテッド ライアビリティ カンパニーでは「Bridge to Knowledge」キャンペーンを展開し、洪水に見舞われやすいベトナムに2030年までに20の橋を建設し、10年間にわたり橋のメンテナンスを行うことを宣言しています。2019年までにダクラク省とディエンビエン省に2つの橋を完成させ、3,927人の地域住民の生活に貢献、335人の子どもたちが安全に学校に通えるようにしました。現在もドンナイ省とソンラ省でさらに2つの橋を建設中です。このプロジェクトは、地域の子どもたちにより安全な移動手段を提供することで平等な教育の機会を提供し、地域経済の発展に貢献しています。

路上における安全なモビリティの確保と交通事故の削減に貢献するため、ブリヂストン インディア プライベート リミテッドでは、従業員ボランティアにより、トラック運転手を対象に、運転技術向上や視力矯正を目的としたプログラムを実施しました。450人の若手がプロトラック運転手としての訓練を受け、6,250人のトラック運転手が視力検査と視力治療を受診、2,520個の眼鏡が配布されました。また、より健康的なライフスタイルの導入に向けたセッションも実施しました。

当社グループは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(2021年7月に延期)の水泳競技会場となる「東京アクアティクスセンター」、バレーボールと車いすバスケットボール競技会場となる「有明アリーナ」に免震ゴムを納入しました。両施設では、建物(スタンド)と屋根の間に免震ゴムを設置する屋根免震^{*1}を採用しています。屋根を支える部分の下に免震ゴムを設置することで、屋根に伝わる地震の揺れを低減し、屋根下の建物部分への負担を減らすことができます。これにより、当該施設全体の地震時の安全性向上に貢献します。

*1: スポーツ施設等のホールドーム型施設で大空間の屋根を設ける場合に、建物と屋根の間に免震ゴムを設置する工法。





一人ひとりの生活 次世代の学びを支える

ブリヂストングループでは、人々の生活やキャリアアップを支援するための教育・研修の機会を拡大しています。



世界中で様々な交通安全教育に関するプログラムを実施しています。

- ・ ベトナムでは、3,000人以上の小学校教員と協力し、ハノイ市とホーチミン市の生徒たちに交通法規や安全対策に対する教育プログラムを実施したほか、ヘルメット200個を学校に寄贈しました。
- ・ BSEMIAの8か国13拠点の従業員間で、ヒヤリハット事例の共有を行いました。それぞれの事例は各言語に翻訳された後、イラストや動画を交えたコンテンツとして、全従業員向けに社内Webサイトで公開されました。約3,800人の従業員がこのWebサイトを訪れ、多くの従業員の安全意識向上につながりました。
- ・ ポーランドでは、2008年より、従業員のボランティアによる交通安全教育に取り組んでいます。これまでポズナン市周辺の約300の幼稚園、延べ33,000人以上の園児に、チャイルドシートの使用方法や交通安全に関する教育プログラムを実施してきました。
- ・ ブラジルでは2018年に「Bridgestone traffic education」という、10代以下の子どもたちの交通安全に対する意識を高めるためのプロジェクトが発足しました。この活動はブラジル全土に拡がっており、これまでに5つの学校で6,000人以上の生徒が、より安全な交通社会の実現について学んできました。BSAMでは地域の教育者をサポートし、この取り組みを推進しています。

トルコにある、ブリヂストンの関連会社ブリサ ブリヂストン サバンジ ラスティック サナイエ ヴェ ティジャレット アーシェ(Brisa)では、2010年からタイヤサービス技術者としての雇用創出に取り組んでおり、直近では女性を対象としたプログラムに注力しています。これまでに26人の女性技術者を育成しており、現在も地元のディーラーで働く女性社員や服役中の女性に、キャリアアップや社会復帰支援の機会として、技術者育成訓練の機会を提供しています。また、既に5,000人以上の学生が無料の職業訓練を受講し、受講者の65名がBrisaのディーラーで働いています。



一人ひとりの生活 地域の健やかな暮らしを支える

ブリヂストングループは、人々がより健康な生活を送るために必要な支援に努めており、世界中の従業員やステークホルダーにコミュニティの強化を支援するボランティアを奨励しています。

2019年には、BSAMが「ボランティアーウィーク」を開催しました。ボランティアーウィークは2019年12月2~8日の間、約475人の社員が、延べ約1,600時間にわたってボランティア活動を行ったもので、公共施設や水路の清掃、約18,000食の寄付、約1,000世帯に衣類と玩具を寄贈しました。

ブリヂストンでは、人々がより快適に移動し、生活し、働き、そして楽しむことに貢献してきました。2019年のブリヂストン アメリカス ボランティアーウィークの成果は、従業員が一丸となって地域社会に貢献することのインパクトの大きさを示しています。

クリスティーン・カーボウイアック
Christine Karbowiak
Global CSTO

ブリヂストンでは、東日本大震災によって保護者を亡くされた子どもたちを長期的に支援することを目的に、NPO法人お茶の水学術事業会を中心として、2011年より「夢のつばさ プロジェクト」を実施しています。保護者を亡くされた子どもたちが一緒に楽しい時間を過ごす場を定期的に設け、その成長を長く見守っていきます。また、資金面での協力のほか、当社保養施設を当プロジェクトの活動場所(夏と冬の定期キャンプ)として提供しています。

BSCAPでは、Breast Cancer Foundationと共に、「Nursery Rhyme Campaign」を実施しました。これは子どもたちが自分の母親に検診を意識してもらうことを目的に、よく知られる童謡のリズムに合わせて自己検診を促すなど、乳がんの早期発見につながるもので、地域の健康増進とがん治療の発展に貢献します。シンガポールで開催されたピンクリボンウォークにおいて5,000人以上が参加しました。

スポーツを活用した取り組みとして、中国では、ユニセフと「the National Cancer Foundation」への寄付活動と連動した、従業員の健康増進プログラムを実施しました。ブリヂストングループが開発したモバイルアプリ「BS-Fit Rewards」を利用して自分の歩数を記録し、その歩いた距離に応じて寄付される仕組みとなっており、2万人以上の従業員の参加により、150億以上の歩数を記録、1,230万円以上を寄付しました。

BSAMでは、各事業所内に5つの従業員グループ(ERG)を設置し、多様かつインクルーシブな職場づくりに取り組んでいます。ERGは、全ての従業員に対し、コミュニティ・サービスのボランティア活動に参加する機会や、学習と成長の場を提供します。ERGには下記のものがあり、それぞれ異なる役割を担っています。

- BRAVO :ベテラン従業員及びベテランサポーターのコミュニティ
- BWIN :女性従業員の成長とリーダーシップの支援
- BNEXTGEN :若手のプロフェッショナル人材の育成を支援
- BProud! :多様性を尊重し、協力的な職場環境づくりを促進
- BOLD :アフリカ系アメリカ人の従業員と支援者の包括的なコミュニティを強化



新型コロナウイルス感染症拡大への対応

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大は、世界中の人々に未曾有の犠牲をもたらし、数え切れないほどの困難をもたらしましたが、同時に、世界中の人々が互いに助け合い、優しさを發揮する機会を生み出したともいえます。

この危機が発生して以来、ブリヂストングループは、従業員やお客様、地域社会を支援するために迅速に行動してきました。世界各地の生産拠点では地域の医療従事者や救急隊員のために、個人用保護具を寄贈しており、販売拠点では、現場で働く人々に自動車やタイヤを提供するためのサービスを展開するとともに、より安全な顧客体験を提供するために、感染拡大防止に配慮しながら営業を継続しています。また、食料品や医療キット、その他の生活必需品などを、十分なサービスを受けられない地域社会に寄付しており、緊急時に必要な備品や、最前線で危機に対応している方々にタイヤを寄付しています。COVID-19への対応活動を支援する目的に、2020年5月1日時点で約1億4,170万円^{*1}の寄付を行いました。

このような継続的な支援は、従業員の「互いに助け合いたい」「地域社会に貢献したい」という思いがあってこそ実現したものです。ここでは、当社グループが世界各地で行っているCOVID-19への対応に関する支援活動の一端をご紹介します。

日本

- 国内での大規模な需要に対応するため、非医療用マスクを週10万枚生産しています。そのうち30万個は、事業所所在地の自治体に寄付しています。
- ブリヂストンは普利司通(中国)投資有限公司と共に、中国のチャリティ組織や地方慈善団体に約4,440万円^{*2}を寄付し、救援と復興活動を支援しました。



米州

- オハイオ州アクロンにある技術センターでは、3Dプリンタを利用してフェイスシールドなどを製造しています。2020年6月9日現在、5,800個以上のシールドと700個以上のイヤーセーバーが地元の医療提供者に寄付されています。
- メキシコ、コスタリカ、エクアドル、ブラジル、アルゼンチンでは、地域での経済的な影響を考慮し、数ヶ月間に渡り、2,300以上の家庭に食料や衛生用品を提供するための現地プログラムを支援しています。
- ブリヂストン リテールオペレーションズ アメリカは、「Boys and Girls Clubs of America」が立ち上げた「COVID-19救済基金」に約9,156万円^{*1*3}を寄付しました。

欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ

- ヨーロッパでは小売ネットワークを活用して、医療従事者向けにスペイン全土で24時間無償の緊急タイヤ修理サービスを提供するとともに、サプライチェーンを支えている運送業者向けにタイヤ空気圧チェックを無償で提供しています。また、アイルランド全土の小売店では、最前線で働く方々に無償で車両の消毒サービスを提供し、フランスでは200の小売店で看護師を対象に車両保護カバーを提供しています。
- インドでは、全国的な都市封鎖によって帰宅困難者となったトラックドライバー9,500人に食料などの必需品を提供しました。
- BSEMAでは、運動、栄養、マインドフルネス、良質な睡眠といったテーマに関する情報を提供する「B-Well@Home」というプラットフォームを立ち上げました。

中国、アジア・大洋州

- 台湾では、輸血用血液の不足を補うため、献血活動を実施し、60袋130,200ccを寄付しました。
- ベトナムでは、都市封鎖中の子どもたちを支援するために、従業員や協力会社の方向けに2万冊の塗り絵を製作しました。またベトナム政府に約71万円^{*1}以上を寄付しました。
- BSCAPの拠点では、主要なステークホルダーにソーシャルメディアのチャンネルを通じて、安全や健康に関する情報やヒントを提供しています。

*1: 1ドル=109円で換算

*2: 1元=14.8円で換算

*3: お客様やビジネスパートナーに「Boys and Girls Club of America」へ寄付いただいた金額を含む